

学校法人東北工業大学

中期計画書 TOHTECH2028 実施状況報告

(令和6(2024)年4月1日 から 令和11(2029)年3月31日)

令和8(2026)年3月31日時点

目 次

【 大学部門・実施状況 】		
I 教育	P. 1	～ 3
II 研究	P. 4	～ 5
III 社会貢献	P. 6	～ 8
IV 管理運営	P. 9	～ 13
V 施設設備	P. 14	～ 15
VI 連携・交流	P. 15	～ 16

【 高校部門・実施状況 】		
I 教育	P. 17	～ 18
II 生徒支援	P. 18	～ 19
III 地域貢献	P. 19	
IV 環境整備	P. 20	
V 学校運営	P. 20	～ 21

【 大学部門・KPI 】		
I 教育	P. 22	
II 研究	P. 22	
III 社会貢献	P. 23	
IV 管理運営	P. 23	
V 施設設備	P. 23	
VI 連携・交流	P. 24	

【 高校部門・KPI 】		
I 教育	P. 25	
II 生徒支援	P. 25	
III 地域貢献	P. 25	
IV 環境整備	P. 26	
V 学校運営	P. 26	

学校法人東北工業大学 中期計画 TOHTECH2028 進捗状況【大学部門】

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
I 教育	多様な学生を受け入れ、多様で充実した教育体制のもとに、一人ひとりの能力を向上させて社会に送り出す時代に即した教育とその体制を拡充する				
	1. 学生受け入れ	(1) 効果的な入試広報戦略の構築	・大学ブランディングに基づく大学の魅力発信 ・安定的な入学者の確保 ・留学生や社会人学生の受け入れ方針に基づいた広報活動展開	・オープンキャンパス(対面型、5回開催)参加者合計3,778名(昨年度3,617名)、進学説明会(県内外の高校教員対象)参加者58名(昨年度59名)、進学相談会55会場(昨年度57会場)接触者608名(昨年度669名)、校内ガイダンス103校(昨年度106校)接触者数1,681名(昨年度1,523名) ・2026年度入試の入学者数は835名(定員の約110%)であった(4/1現在)。 ・2026年度入試の志願者数は、外国人留学生特別選抜で5名、社会人特別選抜で0名であった。	・より魅力的なオープンキャンパス開催に向けた企画内容の検討・実施する。 ・高校訪問について、年内入試シフトに対応するため実施時期を見直しするなど、さらなる充実を図る。 ・広報委員会(大学広報強化WG)との連携等により入試広報活動を強化するなどし、収容定員の1.10倍(約836名)の入学者を確保するとともに、適切な収容定員管理(115%未満の徹底)を行う。 ・留学生や社会人学生の受け入れ方針に基づき、広報活動をさらに展開していく。
		(2) 入試選抜方法の検討・評価	・新入試2025の評価 ・女子特別選抜の評価 ・2025改組に向けた入試制度の検討・実施・評価	・大学入学共通テスト利用選抜(1期)の教科「情報」に関して、入試委員会等で分析等を行った。 ・公募制推薦型女子特別選抜で初めての志願者(3名)があった。 ・2025年度入試における変更点① AOVA選抜の論述試験(模擬講義)の導入、② 専門学科・総合学科選抜の小論文の導入、③ 一般選抜(A・B日程)の工学部・建築学部の「数学」の必須化、④ 一般選抜(B日程)における一部「記述式」の導入、⑤ 大学入学共通テスト利用選抜2期における「主体性評価」の導入、⑥「東北工業大学資格取得奨学金制度」の新設に関して、入試委員会等で検証等を行った。	・国の入試改革(教学マネジメント指針(追補)等)への対応(「入学者受入れの方針」を踏まえた大学入学者選抜の実施)に加えて、2029年度改組に向けてさらに検討を進めていく。 ・2027年度入試からの年内入試の全体的な見直しの一つとして、公募制推薦型女子特別選抜を廃止、AOVA女子特別選抜を新設し、女子特別選抜の入試時期を早めることとした。 ・① 年内入試の実施時期の見直し、② AOVA選抜(1期)に探究活動重視型の導入、③ AOVA選抜女子特別選抜の導入、④ AOVA選抜(2期)の導入など、2027年度入試の円滑な実施にむけた検討を引き続き行う。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
I 教育	2. 教育の質保証	(1) 学生の能力(学士力)を伸ばす取り組み	- 適切なアセスメント(コア科目のMR: 試行・分析・実行)の実施 - デジタル(録画)教材の活用率増加策 - PBLの全学的推進 - 大学院の3ポリシーの見直しと改訂 - 多様な学生にあわせた教育内容や体制の検討	- 専門学士力のミニマムリクワイアメント(MR)のアセスメントを試行実施し、実施状況報告書を作成した。 - 大学院AEGGポリシー(A専攻・D専攻)を改定し、3ポリシーの体裁を全研究科で揃えた。 - 留年・休退学抑制策の1つである再試験、再々試験等の実施に伴い、復習に活用する学生のアクセス数が増加した。 1年生と2年生全員に対し、キャリアデザインⅠ・Ⅱの授業でPBLのグループワークを継続実施した。	- 専門学士力MRのアセスメントを引き続き試行実施し、妥当性の確認と改善策の検討を行い、令和9年度の本格実施に向けて調整を行う。 「キャリアデザインⅡ」の授業において、代表学生が登米市を訪問し、PBLを実施する。 - ブレースメントテスト検討委員会を発足し、テスト自体の在り方と低学年学生の学力把握の在り方を検討する。
		(2) 学修成果の可視化	- 大学としての卒業研修の取り組みと成果の公表 - 各種施策検討におけるTableauの有効かつ効果的活用 - アセスメントテストスコアを用いた共通学士力成長度の可視化	学位プログラムレベルのアセスメントを試行実施するとともに、アセスメント結果を盛り込んだディプロマサブリメントの様式改定案を検討した。	アセスメント結果を盛り込んだディプロマサブリメントへの様式改定を教務システムとの連携をふまえて実施する。
		(3) 定常的な評価・改善の実施	- 教育満足度の向上(不満要素の抽出・分析・検討、退学要因の抽出・分析・検討等) - 課外活動(学内・学外)の参加促進 - 県外出身者のサポートのあり方検討	- 学科・課程FDの中に、カリキュラムの評価・検証の要素も盛り込むように検討した。 2025年度は課外活動の推進および県外出身者の支援を目的に以下のイベントを実施した。 - Starting Together2025(スタートアップセッション) - Campus Open DAY2025(キャンパス交流イベント) - Yagiya Zoo Friends2025(動物園で友達作りイベント) - 活動意欲のある学生に向けてT-Projectの募集を行い、2件の応募と活動支援を行った。 - 入学前スクーリングにて入学予定者にクラブ活動紹介を行った。 - 入学式後に出身県別に教職員と県人会として交流機会を設けた。	- IRデータベース内のデータを用いて「不適」の多い科目について分析し、学科・課程FDの実施に資する。学科・課程FDでは、単独科目の改善にとどまらず、カリキュラムの将来的改善も視野に入れた検討を進める。 - ドリームコンテスト(クラブ活動協賛募集)を実施し、意欲ある学生へのクラブ活動支援を企業(グローテック)の協力を得て実施予定。
	3. キャリア教育・就職／進学支援	(1) キャリア教育の充実およびキャリア支援体制の強化	進路支援スタッフの強化(特に配慮が必要な学生へのサポートの強化等)	「キャリアデザインⅠ」における職員の伴走支援ならびにスチューデントパートナーとの情報共有により、特に配慮が必要な学生を早期に把握するとともに、同学生への適切なサポートを行った。	「キャリアデザインⅠ」における職員の伴走支援、スチューデントパートナーとの情報共有、またウェルネス委員会・学生支援ネットワーク会議との連携により、特に配慮が必要な学生の早期把握を行うとともに、学生への更なる支援強化を図る。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
I 教育	3. キャリア教育・就職／進学支援	(1) キャリア教育の充実およびキャリア支援体制の強化	・キャリア教育(キャリアデザイン)の充実 ・キャリアデザイン等での大学院進学の積極的啓発 ・大学院卒キャリアのメリットの浸透	・「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」において、PBL(課題解決型学習)を実施した。特に「キャリアデザインⅠ」においては地域(登米市)の課題をテーマとする地域連携PBLを実施するとともに、地域視察のためのバス見学ツアーも実施した。 ・「キャリアデザインⅠ」において、学部長によるパネルディスカッション動画を配信し、大学院卒キャリアメリットを浸透させるとともに、「キャリアデザインⅢ」においては、大学院生によるパネルディスカッションを実施した。	・2025年度の登米市PBL参加学生を対象に、市職員と解決策を検討・提案する「登米市ワークショップ」を実施する。また2026年度の「キャリアデザインⅠ」では、新たに多賀城市の課題をテーマとした地域連携PBLを実施する。 ・「キャリアデザインⅡ」の進路研究にて大学院進学をのメリットを解説し、「キャリアデザインⅢ」では引き続き大学院生によるパネルディスカッションを行い、学生の大学院進学に対する疑問や不安の払拭を図る。
			・キャリア支援に対する満足度評価と向上(受講意見の分析・改善)	・「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」とも、「とても満足」「どちらかといえば満足」と回答している割合が88%以上であり、各々学年平均レベルであった。必修科目としては概ね適切であった。	・前年度の授業評価アンケート結果を各講師にフィードバックし、さらなる学生満足度の向上に繋げる。
	4. 教育体制の充実と強化	(1) 「ひろく学び、知をつなぐ」場の整備と推進	・2025改組に向けた体制整備と実行 ・課程制や副専攻制の学び(ひろく学び、知をつなぐ)の価値を伝える卒業生等による講義の推進 ・学部間連携の推進	・分野横断プログラムと副専攻プログラムのシステム運用環境の構築と履修等の申請様式を整備した。 ・分野横断プログラム、副専攻プログラムの説明会を後期成績発表で実施し、学生への意識づけを行った。	卒業生等による講義の実施や学部間連携の推進については、今後の課題として検討していく。
		(2) 未来の工大(組織改編等)の推進：大学院との接続・連携を視野にいたした議論と実行	・短中期の将来計画の策定と推進 ・中長期的な視点での将来計画の検討	・大学院改組の本申請を行った。 ・学部の定員見直しを行った。	・学部のR9年度からの収容定員に係る学則変更届出を行う。
		(3) DX/GX教育の推進と充実	・応用基礎レベル認定のための準備・申請・認定 ・受講意見の分析・改善	本学教員が共同執筆したグリーンテクノロジーの教科書を発行した。	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定期間の満了が近づいており、更新の再認定を受ける予定。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅱ 研究	学内外の研究者との横断的組織化を図り、先端研究、地域対応型研究、教育のための研究を推進する				
	1. 研究支援体制の強化	(1) 研究マネジメントの整備	・研究コンプライアンス、研究リスクマネジメント、データマネジメント、知的財産マネジメントの整備と推進	・令和6(2024)年度に、研究不正防止コンプライアンス研修、産学連携リスクマネジメント研修を実施した。 ・令和7(2025)年度に、研究倫理研修を実施した。 ・令和7(2025)年度に、電子ジャーナルの即時オープンアクセス実施体制を整備した。	・令和8年度は、研究コンプライアンス研修を実施する予定。
		(2) 研究環境整備	・研究費の戦略的配算の検討と実施 ・外部資金獲得者等へのインセンティブ付与の検討と実施	・令和6(2024)年度に、間接経費の30%を研究推進経費として配分する規程改正を行った。 ・学内公募研究制度にて、採択課題に研究費を配分している。 令和6(2024)年度 19課題採択 令和7(2025)年度 20課題採択 ・令和6(2024)年度に、外部資金獲得者等へのインセンティブ付与WGにて検討し、PI人件費制度を制定(国等への届出、規程・内規整備)した。 PI人件費制度の利用状況は 令和7(2025)年度 教員2名	・令和8年度は、研究力強化WGにて研究力強化・研究者支援施策を検討する予定。
			・研究スペースの戦略的配分	・本学発ベンチャー企業に対し八木山キャンパス4号館地下4階の多目的室を研究スペースとして貸与した。	・八木山キャンパスの2号館や循環技術研究施設、長町キャンパスの旧NRDスーパーブロードバンド研究施設等の利活用を検討する。
	2. 大学院強化	(1) 研究科・専攻の充実	・学部改組にあわせた大学院整備 ・学部・大学院一貫教育の環境整備 ・定員増を見据えた大学院の拡充 ・大学院生の研究環境の充実	・2026年度から工学研究科の改組及び建築学研究科を含む収容定員増を文部科学省に届出済みである。 ・工学研究科はこれまでの専攻における分野を横断した専攻として設置し、教員の移籍を伴う改組であり、課程制へ移行した学部のさらなる発展型となる。	学部における改組については2029年度に向けて議論しており、学部・大学院一貫教育の環境整備は今後の課題として検討していく。
		(2) 大学院生増のための取り組み	・社会人・外国人留学生に対する戦略的検討と実施 ・早期卒業制度の整備と実施・推進 ・内部進学率の向上のための施策の検討と実施(入学後早期からの大学院進学 の啓発、学部生の学会等への参加奨励と支援、シーズ発表会等への学生参加等)	・早期卒業制度を整備し、2025年9月に早期卒業後、本学大学院に秋入学している。	社会人および外国人留学生に対する受け入れ戦略と、内部進学率向上のための施策について検討を進めていく。

: 最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅱ 研究	3. 学内外連携研究の 拡充	(1) 連携研究強化	・SDGs研究実践拠点の推進と定着 ・研究所活動の推進と定着 ・自治体や企業等との共同研究・受託研究の推進	・東北SDGs 研究実践拠点事業により、学内外との連携研究の推進を宣言している。(令和7(2025)年度:5拠点形成) ・学内外の連携研究を行うプロジェクト研究所を推進している。(令和7(2025)年度 21 研究所) ・企業・自治体・国等との共同研究や受託研究を推進した。 - 令和6(2024)年度: 共同研究 19件・40百万円、 受託研究 41件・148百万円 - 令和7(2025)年度: 共同研究 25件・55百万円、 受託研究 32件・216百万円 ・大学間連携研究を目的に、東北医科薬科大学と「医薬工研究連携キックオフセミナー」を開催し、本学教員4名が講演した。 - 令和7(2025)年度: HOTEL JAL CITY 参加者44名	・東北SDGs 研究実践拠点事業をさらに推進し、同時に2028年度の新事業を見据えた見直しを行う。
		(2) 戦略的広報・成果の可視化	・シーズ発表会の開催 ・各種フェア等への参加・出展 ・教員研究成果及び学生研修成果の可視化・戦略的広報	・プロジェクト研究所のシーズ発表会として、東北SDGs研究実践拠点産学連携交流会を開催した。 - 令和6(2024)年度: 江陽グランドホテル 参加者130名 - 令和7(2025)年度: 江陽グランドホテル 参加者155名 ・東北工業大学同窓会との共催で、東北・関東圏の各県同窓会支部の協力による円卓会議等を開催し、東北SDGs研究実践拠点について広報した。 - 令和6(2024)年度: 関東圏開催(東京都:喜山倶楽部) - 令和7(2025)年度: 福島県開催(郡山市:郡山ビューホテル) ・東経連ビジネスセンターと共催で、宮城県に拠点を置くトヨタ自動車東日本及び地域企業向けに本学の研究シーズを発表する「地域版 東北・新潟地域の車を考える会 in 東北工業大学」を開催した。 ・大学見本市イノベーションジャパンへの出展はⅢ-1-(1)に記載 ・学生研修成果の可視化に関して卒業研修発表会の日程等のとりまとめ(Webサイトでの告知)を行うとともに、工大ブランディング推進委員会において、教員研究成果の可視化・戦略的広報の必要性を共有し、次年度継続して検討することを確認した。	・令和8年度は、産学連携交流会と円卓会議を統合したイベントを山形県で開催することを計画中。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅲ 社会貢献	地域ニーズの把握、本学の知的シーズとのマッチングおよびコーディネートを充実強化する				
	1. 学内外連携の拡充	(1) 連携実践活動の体制整備と成果の可視化	・連携実績や成果の可視化	2025年度実績 ・「KCみやぎ産学共同研究会」1名採択 ・「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」2名採択 ・「連携事業に関するシンポジウム」2件開催 ・私立大学等改革総合支援事業(タイプ3)において39点(選択基準点42点)。 ・webサイトへの実績掲載(計157件)。 ・地域連携活動紹介リーフレット「地域共創アクション2026」発行。	2026年度計画 ・「KCみやぎ産学共同研究会」への応募(目標2件以上) ・「イノベーション・ジャパン」への出展(目標2件以上) ・「連携事業に関するシンポジウム」の開催(目標2件以上) ・私立大学等改革総合支援事業の採択基準点到達を目指した体制整備の推進。 ・本学 Webサイト(ニュース)への掲載件数(目標120件以上) ・教職員が随時閲覧できるイベント予定表の作成・掲載。
	2. 教育研究成果の発信	(1) 学生の学修成果の可視化	・学生版研究／活動業績のリスト化と公表 ・PROG成果の公表 ・卒業研修成果の外部発信	建築学科、産業デザイン学科、生活デザイン学科が「せんだいメディアテーク」において卒業制作展を継続実施した。	・PROG成果の学外向け公表案について、令和7年度中にFDIR企画部会で検討できなかったため令和8年度中に検討していく。
		(2) 教員の教育・研究成果の可視化	・授業及び研究紹介動画の制作・アーカイブ化 ・専門分野を表す研究室名と教員名研究室併記の検討	・東北SDGs研究実践拠点の研究を学外の一般の皆様理解していただくため、3分間の短い研究紹介用動画を作成し、本学Webサイトで広報している。 令和6(2024)年度：4本製作(累計18本公開中) 令和7(2025)年度：4本製作(累計21本公開中) ・令和6(2024)年度の広報委員会において2025年度から「専門分野を表す研究室名」を使用していくことを決定し、2026大学案内パンフレット(2025年4月発行)及び、公式Webサイト(2025年4月更新)に反映している。	・研究成果の可視化を推進するため、今後も3分間の短い研究紹介用動画を作成し、アーカイブ化を推進する。 令和8(2026)年度：3本新規製作予定。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅲ 社会貢献	3. 地域連携や社会への研究成果の還元	(1) 研究実装体制の検討と整備	・連携協定締結の促進 ・大学発ベンチャーのさらなる支援体制整備と実現 ・URAや産学連携コーディネータ等の配置の検討	・大学発ベンチャー企業へ大学保有特許を実施許諾した(令和6(2024)年4月～)。 ・大学発ベンチャー企業へ学内実験室スペースを貸与した(令和6(2024)年6月～)。 ・包括連携協定を2件締結(㈱セント、みやぎ地場産品開発流通研究会)。 ・ベンチャーキャピタルと秘密保持契約締結(スパークル㈱)。	・大学発ベンチャーの新規創出を推進する。 ・包括連携協定を2件以上締結する。 ・既締結先(自治体・企業)への支援や、小学校等へのプログラミング教育支援を強化する。 ・自治体や企業からのニーズを収集・集約し、適時適切なマッチングを促すための学内周知体制を構築・実施する。
		(2) 実装先の企業や地域・社会との連携強化	・共同研究・受託研究の推進 ・共同特許出願の推進	・企業、地域・社会との共同研究・受託研究の推進している。 - 民間企業との共同研究、受託研究 令和6(2024)年度：37件 令和7(2025)年度：29件 - 地域・自治体との共同研究、受託研究 令和6(2024)年度：9件 令和7(2025)年度：10件 ・学内公募研究にて企業との共同研究へ繋ぐ「実用化型」及び地域との連携研究を推進する「地域連携型」の2タイプを設定し研究費を支援している。 - 令和6(2024)年度： 実用化型 5件、地域連携型 4件 - 令和7(2025)年度： 実用化型 3件、地域連携型 5件 ・企業との共同研究との成果として特許の共同出願を推進した。 - 令和6(2024)年度： 国内共同出願 0件、国際共同出願 1件、 知的財産収入 3件・1,994千円 - 令和7(2025)年度： 国内共同出願 3件、国際共同出願 0件、 知的財産収入 4件、2,738千円	・東北SDGs研究実践拠点事業、シーズ発表会、各種フェア等への出展、WEBサイトの充実等により、企業、自治体等との産学官連携の機会を創出し、共同研究・受託研究を推進する。
		(3) 学生による社会参画のための体制整備と促進	・学生団体やサークルと社会とをつなぐ窓口(接点)の整備 ・学生の活動の可視化と発信 ・アントレプレナーシップ教育の充実	2025年度実績 ・学生団体「起業学生ラボ」と外部機関(スパークル㈱)との連携開始。 ・テクロビギャラリーにて、写真部による写真展を実施(3月)。	2026年度計画 ・アントレプレナー教育をFSD研修会において実施する ・アントレプレナー教育を2027年度「キャリアデザインⅡ」で実施すべく準備を進める。 ・学内展示やWebサイト等による活動成果の積極的な可視化・情報発信を行い、社会参画の窓口機能を強化する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅲ 社会貢献	4. 教育資源の社会還元	(1)リスキリング／リカレント教育／生涯学習／STEAM子ども向け教育等の検討と整備	・サテライトキャンパスの運用方針明確化と体制検討・整備・実施 ・市民公開講座／地域未来学講座のアーカイブ化 ・リカレント教育／履修証明プログラム等整備の検討	2025年度実績 ・4月に新サテライトキャンパス「テクロビ」を開所。利用ごとに学内教職員を責任者として配置する運用体制を整備。 ・エスキースルーム利用実績：利用日数85回、総利用者数1,340名。 ・テクロビギャラリー利用実績：利用件数1件、開催日数4日。 ・「地域未来学講座」オンライン開講(アーカイブ付)：講座数16講座、延べ受講者数795名(アーカイブ受講者含む)。 ・「市民公開講座」オンライン開講(アーカイブ付)：講座数20講座、延べ受講者数472名(アーカイブ受講者含む)。 ・「まちなか美術講座」対面開講：講座数2講座、延べ受講者数54名。 ・「まちなか博物館講座」ハイブリッド開講：講座数1講座、延べ受講者数105名。 ・「まちなか文学館講座」対面開講：講座数1講座、延べ受講者24名。 ・リカレント教育における履修証明プログラム開講に向け、仙台市から意見聴取。	2026年度計画 ・エスキースルーム利用目標：70回以上。 ・テクロビギャラリー利用目標：10件以上。 ・ギャラリーの学外貸出に向けた運用方針(有料化等)を検討する。 ・「地域未来学講座」16講座の開講。 ・「市民公開講座」20講座の開講。 ・各種「まちなか講座」6講座の開講。 ・上記講座に対し、受講者ニーズに応じた開催方法・時間、有料化についての検討を行い、2027年度実施を目指す。 ・グリーンウォーターズ(株)と連携した無料リカレント講座を実施する。 ・リカレント教育における履修証明プログラムについて、2027年度開講に向け検討する。

■：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
IV 管理運営	効率的かつ機能的な管理運営体制を構築するとともに、健全な財政基盤を確立する				
	1. 経営・ガバナンス強化	(1)運営組織体制の強化	・本学の実態を踏まえた自律的なガバナンス・コードの見直しと毎年度の遵守状況の確認 ・私立学校法改正に対応したガバナンス体制の強化 ◎理事・監事・評議員及び会計監査人の資格、選任及び解任の手続き等並びに理事会及び評議員会の運営のあり方の見直し ◎内部統制システム基本方針の策定	・令和2(2020)年4月に制定した本学ガバナンス・コードを廃止し、令和7(2025)年度から日本私立大学協会私立大学ガバナンス・コード＜第2.0版＞を受け入れることとした。令和7年9月には当該ガバナンス・コードの遵守状況の点検を実施し、結果を本学Webサイトに公表した。 ・令和7(2025)年4月1日、改正私立学校法の施行に伴い、寄附行為を改正し、内部統制システム整備の基本方針、コンプライアンス規程等、各種規程の整備を行った。また、令和8(2026)年2月には、教職員のコンプライアンス意識の醸成を目的としたコンプライアンス研修を開催した。 ・理事・監事等の選解任及び理事会・評議員会の運営については、改正私立学校法に基づき寄附行為を改正したほか、新たに理事会運営規則、評議員会運営規則を制定した。	・引き続き、ガバナンス・コードの遵守状況の点検を実施し、必要に応じ見直しを行う。
			・危機管理体制の強化 ◎自然災害、感染症、不祥事等の発生に備え、如何に事業の継続を図っていくかについて検討	・令和7(2025)年4月1日、危機管理規程を改正し、リスク管理体制を加えたリスク管理規程を整備した。	
			・改組再編を踏まえた教学マネジメント体制の再構築 ・KPIに基づく自己点検評価の実質化 ・IRデータベースの拡充(収集蓄積の連携強化)と積極的活用	・自己点検KPIの実質化に向けた改定案を検討した。 ・IRデータベースとBIツールを繋いで可視化したグラフを本学Webサイトに埋め込み、学外向けに公開した。	
			・既に整備済みの、「震災時対応、安否確認と学生等への周知マニュアル」や「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針」等を基に、BCP(事業継続計画)を策定する。 ・必要に応じ、マニュアルの整備・更新を行う。		
			・中期計画KPIの見直しを踏まえてKPIのあり方について検討し、令和9年度以降の自己点検評価に活用する。		

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
IV 管理運営	1. 経営・ガバナンス強化	(2)ダイバーシティの推進	・学校法人東北工業大学ダイバーシティ基本方針に基づく取組内容の検討 ・ダイバーシティに関する現状分析(職階別男女比など指標となる数値の把握)及び研修や啓発活動を実施するとともにダイバーシティの取組状況を公表	・ダイバーシティ研修を開催した 令和6(2024)年度:「介護と仕事の両立セミナー」「生理痛体験研修」 令和7(2025)年度:「仕事と介護の両立セミナー」、「女性活躍推進セミナー」 ・ダイバーシティ専用のWebページをリニューアルし、ダイバーシティの取組状況等を公表した。 (令和7(2025)年度)	・引き続き、各種研修会を開催するなど、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に取り組む。
			・ユニバーサルデザイン等、ダイバーシティに配慮したキャンパス整備を推進	事務系職員用PCについて、「多様で柔軟な働き方」を可能とするノートPCに更新した。	八木山キャンパス新棟2期の各階に、多機能トイレを設置する。
			・ウェルビーイングを重視した職場環境の構築(ウェルビーイング経営) ◎ワークライフバランスに配慮するとともに多様な人材が活躍できる柔軟な働き方(テレワーク制・フレックスタイム制等)の仕組みの構築による教職員エンゲージメントの向上 ・ハラスメントに関する教育・管理体制の見直し等によるハラスメントの未然防止	・ダイバーシティ委員会を中心に女性教職員からの意見を収集した。(令和6(2024)年度) ・教職員のワークライフバランスを考慮し、令和8年4月1日改正施行する就業規則の特別休暇の項目を新設した。 ・弁護士を講師とし、法的な面からのハラスメント講習会を開催した。(令和6(2024)年度)	・引き続き、ダイバーシティ委員会を中心に、多様な人材が活躍できる柔軟な働き方について検討する。 ・ハラスメント防止委員会を中心に、引き続き、研修会の実施する他、ハラスメントの未然防止策を検討する。
		(3)DX推進と人材育成	・DXに関する外部研修への積極的な派遣を通じて、事務職員のITリテラシーの底上げ ・業務のデジタル化及び効率化を推進することのできるDX人材の育成	・RPA基礎研修の実施 ・学内「情報共有・共同作業活性化WG」において、ガルーンやkintoneの有効活用の検討及びアプリ作成を実施した。	・業務のデジタル化及び効率化を推進することのできるDX人材の育成の為、学内外の研修会に職員を派遣する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
IV 管理運営	1. 経営・ガバナンス強化	(3)DX推進と人材育成	・定型業務のRPA化、デジタル化、その他既存業務プロセスの見直しの更なる推進により、サービスの質向上と業務効率化の両立 ◎物品購入要求のデジタル化(最終使用率90%) ◎経費精算のデジタル化(最終使用率100%) ◎電子決裁の使用率目標(最終使用率90%)	・「労務管理システム」等新システムを導入した。 ・導入システムの使用率(令和7(2025)年度実績) ◎物品購入要求: 2024年度1,397件→2025年度2,334件(167%向上) ◎経費精算: 国内出張精算100% ◎電子決裁: 85%(令和6(2024)年度:81%)	・引き続き、業務のデジタル化、業務プロセスの見直しを推進する。 ◎物品購入要求のデジタル化については、新たな方策を検討する。 ◎経費精算: 国内出張精算以外の利用を検討する。 ◎電子決裁: 使用率90%を目指す。
			・教員業績可視化データに基づき適正な教員表彰および教員評価により、教育研究活動のモチベーション向上と活性化	・教員業績可視化データに基づき、令和7年度教員表彰を行った。 ・教員データベース更改に合わせて教員業績可視化項目の見直しを行った。	・システムを活用した教員活動の点検評価および教員業績可視化データの蓄積を継続し、今後の教員評価の議論に活用する。
		(4)長期計画(将来構想)の策定	・将来構想検討委員会を設置し、40年後の創立100周年(2064年)まで見据えた長期計画(TOHTECHグランドビジョン100)を検討	令和7(2025)年11月、将来構想検討委員会を設置し、まずは、令和11(2029)年度の学部学科課程・大学院の改組再編の検討を開始した。	・令和11(2029)年度の学部学科課程・大学院の改組再編の検討を行う。 ・令和22(2040)年を見据えた学部学科課程・大学院の改組再編、収容定員、教職員の基準人員、施設設備計画、財政計画、組織体制等について検討を行う。 ・高校の将来計画を策定する。
			・「大学教員・高校教員・事務職員」それぞれ若手を交えた小委員会の設置 ・「収容定員・改組再編・キャンパス・施設整備・教員組織・事務組織・財政・基準人員・人事制度・研究振興基金の創設等」様々な観点での計画案の検討	・将来構想検討委員会の下、大学教員グループ(工学部Gr、ライフデザイン学部Gr、建築学部Gr)、事務グループ、高校教員グループを設置し、2029年度学部・大学院改組について検討を開始した。	・引き続き、令和11(2029)年度の学部学科課程・大学院の改組再編の検討を進め、案をまとめる。
	2. 大学ブランディングの推進	(1)ブランドビジョンの実体化	・インナーブランディング推進のため、学内実体化に向けた取組を、ブランディング推進委員会で検討した基準に基づき選定し、計画的に実行 ・アウターブランディング推進のため、学外の認知・理解・共感・期待の向上に資する企画を、ブランディング推進委員会で定めた基準に基づき選定し、計画的に実行	・CAMPUS OPEN DAYのブランディング紹介、卒業研修発表会の日程等のとりまとめ(Webサイトでの告知)、ブランディングDAYの開催、「キャリアデザイン」の中で、ブランディングとスローガン解説(全2・3年生対象)、文具のアイデアコンペティションの共催・協賛、夏用のブランドスローガンを印刷したTシャツに加えて、冬用のカレッジパーカーを試作するなど、学内外においてブランディング活動の共感・期待が進むよう、計画的に広報活動を展開した。	・学内においては、ブランディング活動の「共感・自分事化」が進むよう、CAMPUS OPEN DAYのブランド紹介、卒業研修発表会の日程等のとりまとめ(Webサイトでの告知)、ブランディングDAY等を継続して実施する。 ・学外においては、ブランディング活動の「共感・期待」がさらに進むよう、高校生、保護者、地域、企業、卒業生等の様々なステークホルダーに合わせた方法・時期・内容による広報展開を引き続き行う。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
IV 管理運営	2. 大学ブランディングの推進	(2) ブランドビジョンの定着化	・ブランディングDAY等の実施を始めとする学内での定着化の取り組みを推進 ・ブランディング推進委員会で定めた評価指標・点検方法に基づき、毎年の取り組み状況および成果を自己点検・評価し、学生および教職員等に可視化して共有するとともに、ブランディングの強化に活用	・ブランディングDAY、卒業研修発表会の日程等のとりまとめなど、ブランドビジョンを意識とした広報活動を実施した。 ・学外アンケート調査を実施した(2024年度～)。 ・中期計画KPI(ブランドビジョンの個人活動反映者割合)：【教職員】(53%(前年度49%)／〈目標〉60%以上)、【学生】(28%(27%)／〈目標〉40%以上))となった。	・広報委員会と工大ブランディング推進委員会との連携を図りながらブランディング活動をさらに推進するとともに、学内アンケートを継続実施していく。 ・中期計画KPI(ブランドビジョンの個人活動反映者割合)の達成を目指して、教職員・学生それぞれの割合の前年度からの上昇を目指す。
	3. 財政基盤強化	(1) 学納金収入の安定的確保	・本学各種奨学制度等を踏まえた学費のあり方および学納金制度全般に関する検討(学部・大学院)	学納金については、令和7(2025)年度入学生より、学部入学生の授業料を一律3万円引き上げし、併せて設備負担金の徴収方法を暫増方式から定額方式に変更した。 (R6.3.27理事会承認)	今後も競合他大学の状況や国の修学支援制度の動向等を注視していく。
			・同窓生子女の囲い込み策の検討(検定料の免除等)	令和7(2025)年度内には、検討着手できなかった。	関係部署とも協議のうえ、可能性も含めて今後検討する。
		(1) 学納金収入の安定的確保	・ターゲット層(女子入学志願者、外国人留学生受入、社会人入学者等)拡充の検討および計画作成	・2026年度入試の女子の入学者数は186名(22.3%(25年度:22.2%)、工学部:42名、LD学部:99名、建築学部:45名)であった。 ・女子の志願者増のため、女子向け広報リーフレット(Pint! Magazine)を制作した。 ・2026年度入試の志願者数は、外国人留学生特別選抜で5名、社会人特別選抜で0名であった。	・女子向け広報リーフレット(Pint! Magazine)を制作し、オープンキャンパス等での活用を図る。 ・2027年度入試からの年内入試の全体的な見直しの中で、公募制推薦型女子特別選抜を廃止、AOVA女子特別選抜を新設するとともに、女子特別選抜の入試時期を早めることとしている。 ・留学生や社会人学生の受け入れ方針に基づき、広報活動をさらに展開していく。
		(2) 外部資金収入の拡大	・私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得に向けて、重点的に取り組むタイプを選定	令和7(2025)年度は、タイプ3およびタイプ4を重点的に取り組むタイプとして申請した結果、タイプ4にて選定となった。 【令和7(2025)年度選定結果】 タイプ1:申請せず (本学点数一点／選定点数74点) タイプ2:申請せず (本学点数一点／選定点数45点) タイプ3:不選定 (本学点数39点／選定点数42点) タイプ4:選定 (本学点数44点／選定点数41点)	今後も年度ごとに重点的に取り組むタイプを検討・決定し、選択集中型で取り組んでいく。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
IV 管理運営	3. 財政基盤強化	(2) 外部資金収入の拡大	・施設設備整備関連補助金獲得に向けて、対象施設設備を洗い出し、申請計画を作成	令和7(2025)年度は、計画に基づき「ICP発光分析装置」を申請したが、補助金採択には至らなかった。なお、「構造物振動試験装置」は年次計画により導入したが、補助金申請は行っていない。	引き続き対象とする施設設備の洗い出しを行い、計画的に申請を立案していく。
			・研究シーズ等の積極的広報により、科研費等外部資金の受託事業収入や奨学寄附金の増加を図り、研究振興を後押しするとともに、ブランドイメージの向上	・シーズ発表会として、東北SDGs研究実践拠点産学連携交流会の開催、シーズ集の公開、研究事業WEBサイトの充実等を行っている。 令和6(2024)年度：外部資金獲得 146件、346百万円 令和7(2025)年度：外部資金獲得 145件、394百万円	・プロジェクト研究所活動、学内公募研究、競争的資金研究応募支援等を通じ、積極的に外部資金獲得を推進する。
			・新たな寄付方式の展開および寄付メニュー(選択の幅)を増やすことにより、外部資金収入の増加(ふるさと納税型、クラウドファンディング、研究助成基金の新設)	令和7(2025)年度は、企業協賛による100円カレンダーDayや企業情報発信用モニターの設置など、新たな取組を実施した。	学生の課外活動に対する協賛について、具体的に企業との折衝を進めている。引き続き多様な外部資金収入の獲得に向け、取り組んでいく。
		(3) 予算執行および資金運用の適切性・効率性の向上	・購入要求および各種経費精算のデジタル化の推進により、予算執行の効率化	旅費精算については、経費精算システム(楽楽精算)を導入し、令和6(2024)年度より本格稼働している。また、法人基幹系システムの更改に向けた調査検討を行っている。	引き続き、購入要求の定型データ化及び購買システム連携による効率化を目指したシステム化を検討する。その他の予算執行についても、効率化を目指し引き続き検討する。
			・リアルタイム予算執行状況確認システムの構築により、チェック体制の強化	令和7(2025)年度は、発生源入力実現に向けて予算管理システムの更改に係る検討を進めた。	引き続き、更改に向けて関係部署との協議を進めていく。
			・予算の次年度繰越の方法と可能性について検討	令和7(2025)年度内には、検討着手できなかった。	各部局において、重要施策等を踏まえた予算の年次計画を策定したうえで、配分予算の弾力化を可能にする仕組みを検討する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅴ施設設備	八木山キャンパス整備基本構想に基づき、本学の教育研究に寄与できる教育環境を整備する				
	1. 長期整備計画の推進	(1)施設整備長期計画(将来構想)の策定	・学園全体の長期計画(TOHTECHブランドビジョン100)を踏まえて、今後の施設整備の方向性とあり方を検討し、施設整備長期計画(将来構想)の策定	・令和7(2025)年度内には、検討着手できなかった。	・施設整備長期計画を策定するための施設整備の方向性とあり方を検討する。
		(2)次期施設整備基本構想の策定	・上記の施設整備長期計画(将来構想)を踏まえて、現行整備計画(新棟2期)完遂後の次期施設整備基本構想を検討、策定	・令和7(2025)年度内には、検討着手できなかった。	・施設整備長期計画を策定するための施設整備の方向性とあり方を検討する。
	2. ローリング計画の推進	(1)現施設整備基本計画の遂行(ローリング計画・新棟2期建設)	・八木山キャンパス整備基本計画に基づき、ローリング計画及び新棟2期建設を着実に遂行 ・八木山キャンパス整備基本計画のうち新棟2期工事の部分について、建築費の高騰を考慮して建設計画の見直しを検討	・5号館部分解体工事を計画通り完了した。 ・新棟2期建設本体工事の請負契約を締結後、建設工事を着工した。	・各階に設置する什器・機器備品の仕様及びレイアウトを策定する。 ・6・7号館解体及び解体後の外構について検討する。
	3. ファシリティマネジメント	(1)既存施設設備の年次修繕計画策定	・既存施設設備の修繕必要箇所の洗い出し及び老朽化進行状況の確認を行い、年次修繕計画を作成し、施設設備の長寿命化と保全を推進	・令和7(2025)年度内には、検討着手できなかった。	・修繕必要箇所及び老朽化進行状況の調査を行う。
		(2)環境負荷の低減	・空調や照明器具の更改および再生可能エネルギーの利用により、カーボンニュートラルに向けた取り組みの推進	・長町キャンパス1号館の空調設備、八木山キャンパス3号館及び長町キャンパス3・4号館のLED化を実施した。	・大学両キャンパスのクラブ棟、八木山キャンパス2号館及び循環技術研究施設のLED化について検討する。
			・ISO14001の推進活動を通じて、教職員・学生の環境意識の高揚を図り、省エネルギー・省資源、廃棄物削減への取り組みを強化	・廃棄物処理(ゴミ捨て)の際の分別協力をメール及びポータルサイトで周知し、教職員・学生の環境意識の高揚を図った。	・令和7(2025)年度をもってISO14001の認証を返上し、令和8(2026)以降は、環境保全委員会を中心に環境保全活動を継続する。 ・廃棄物・エネルギー使用状況を周知し、省エネ等の意識高揚を図る、
			・事務室のレイアウト変更を行い、働きやすい環境を整備し、業務効率化やコミュニケーションの向上	・業務の利便性の向上を図り、令和6(2024)年度、長町事務室のレイアウト変更を行った。	・八木山キャンパス学生サポートオフィス及び法人事務局事務室の職場環境の改善を検討する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
V 施設設備	3. ファシリティマネジメント	(3) 学生満足度向上の取組	・施設設備に関する学生からの改善要望への対応検討チーム(WG)を設置し、キャンパスアメニティ向上のための具体案を取りまとめて、提案 ・BYODへの対応として充電スポットの増設及びICT環境の整備充実	・学生からの改善要望については、学長直行便や学生FD懇談会、学友会代表者会議等で把握し、その都度可能な範囲で検討・改善実行をしている。WGの設置は検討着手できていない。 ・八木山・長町キャンパスの学生サポートオフィスにてモバイルバッテリーの貸出を行っているほか、新たに八木山キャンパスの1号館、9号館、10号館、食堂、てくらボ、図書館、長町キャンパスの1号館、3号館、食堂に「CHARGE SPOT」を設置した。	・WGの設置を検討する。
学外機関(高校・同窓会・後援会、国際交流協定先等)との連携強化を図るとともに、ブランド発信力を強化する					
VI 連携・交流	1. 高大接続連携先高校との連携強化	(1) 仙台城南高校との連携実質化と強化	・KJ協議会を活用した実質的連携 ・ミスマッチを防ぐ取り組みとあわせた内部進学の実施・強化	・2026年度入試の仙台城南高校からの内部進学者数は75名(前年度60名)であった。 ・仙台城南高校との連携については、「仙台城南高校と東北工大との連絡協議会(KJ協議会)」での協議をベースに、テクノフォーラム、アカデミック・インターンシップ、入学前教育等の各種取組の継続的な実施など、連携が深まった。 ・仙台城南高校のWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業における、高大連携公開講座(「グリーンテクノロジー」)を継続実施した。	・内部進学の実施・強化を目指し、これまでの連携内容を検証しながら、さらなる充実・発展に向けた検討を進める。
	1. 高大接続連携先高校との連携強化	(2) 高大接続連携の強化	・高大接続連携先高校との連携の充実・強化と成果の評価	・高大接続連携先高校との連携の充実・強化を図るとともに、県内高校等においても、出前授業(77校、受講人数:4,204名)、校内ガイダンスへの教職員派遣、高校等からのキャンパス見学(31校、見学者数:817名)の積極的な受入れなど、連携を強化した。	・今後も、出前授業、探究活動、アカデミックインターンシップなどの高大連携活動の積極的な受け入れなどにより、各学部／課程・学科の学びの魅力の周知に努め、高大接続連携先高校をはじめ県内高校等との連携強化につなげていく。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
VI 連携・交流	2. 同窓会・後援会との連携強化	(1) 同窓会・後援会のニーズ把握と連携	・60周年を契機として繋がり強化 ・ブランディング浸透 ・同窓会支部との交流と地方のニーズ把握	・山形県保護者懇談会において同窓会企業招聘(キャリアサポート課が企業選定)を行った。 ・10月開催の大学祭において、ホームカミングデーを実施し、企業7社を招聘した。 ・後援会および同窓会と連携し、Uターン就職を果たした卒業生のインタビュー記事の準備作業を行った。 ・後援会主催の父母懇談会において、同窓会と連携して同窓会企業紹介を行った。 ・同窓会主催の各地における総会等には、大学および後援会の役員が参加した。	・キャリアサポート課における同窓会事務局業務を拡充させ、同窓会組織との連携を一層強化する。 ・後援会および同窓会と連携し、Uターン就職を果たした卒業生のインタビュー記事を三者のWebサイトに掲載して情報発信を行う。 ・ホームカミングデーの開催を継続するほか、同窓会支部総会等の場で大学の近況を積極的に紹介する。 ・後援会主催の保護者懇談会において「みやぎものづくりカレッジプロジェクト」の取り組みを紹介し、宮城県ものづくり企業への就職を促進する。
	3. 国際交流の推進	(1) 学生の国際的視野の醸成と交流促進	・学生の海外留学・視察・調査等に対する柔軟な支援 ・教育の中での国際的視野の醸成や取り組みの検討と推進	・短期留学プログラム報告会を開催し、本学学生の留学意識の向上を図った。 ・短期留学プログラム派遣者数は2024年度の5名から2025年度は13名と増加した。 ・2025年度に協定大学の留学生を短期間受け入れるプログラム「TOHTECH Short Program」を実施し、教育活動の中(研究室活動等)での国際交流活動を推進した。	・学生の選択肢拡充に向け、短期留学プログラムの派遣先国や内容の多様化を検討する。 ・「TOHTECH Short Program」への継続的な学生参加を促進するとともに、効果的な広報方法を検討する。 ・留学生同士および日本人学生との交流機会を充実させ、学生の国際的視野の醸成を図る。
		(2) 教職員の交流促進	・本学の国際交流の立場と視点の明確化 ・教職員の長期/短期研修制度の活用推進と支援 ・国際交流協定先との実質的交流の促進	・2025年4月に国際交流ビジョンを改正し、本学の方向性を踏まえた内容へ見直しを行い、実現に向けた取り組みを進めている。 ・短期研修員制度を利用し、3名の派遣を行った。 ・協定大学数は2026年3月時点で21大学となった。	・引き続き、国際交流ビジョンの実現に向けた取り組みを推進する。 ・協定大学の拡充を進めるとともに、実質的な交流実績が少ない大学との交流再開について検討する。
	4. 大学間連携の推進	(1) 工大サミット参加大学間交流の促進	・工大サミット関連イベントへ教職員・学生の積極的な参加促進 ・工大サミットの取り組みについての学内周知強化(学内認知度を向上) ・工大サミットを通じて得た情報の学内共有(FSD研修会等)	・第8回工大サミット(福井工大)に本学から学長、教職員8名、学生6名が参加し、加盟9大学と交流を図った。 ・工大サミット連携PBLにCD学科学生2名が参加した。 ・工大サミット以外にも4大学合同IRセミナー、大学キャリア教育シンポジウムを開催し、大学間交流を行った。	・工大サミット加盟校が提供するPBLプログラムへの参加を促し、学内で参加者による報告会を開催する。

学校法人東北工業大学 中期計画 TOHTECH2028 進捗状況【高校部門】

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅰ 教育	常に創意工夫に努め、生徒一人ひとりの能力を十分に引き出す教育を実践する				
	1. 基礎学力の定着指導の充実	(1)基礎学力の定着、そのための1年生導入期指導の充実	・スタディーサポートや、スタディーサブリの活用により、低学力層へのサポートを充実 ・学力Dゾーンの生徒は、放課外講習の義務化、大学への推薦条件にCゾーンの縛りをつけるなど、具体的な対策を検討	単元テスト、チャレンジテストの実施により基礎力の定着を図った。夏冬の生徒休業中には講習を行い、高い目標への意識高揚を促した。	単元テストに変えたことによる学力変化について、スタディーサポートなどの外部学力調査結果により検証を行う。
		(2)幅広い学習ニーズに対応する柔軟な教育の展開と教育課程の検討	・教育課程変更から3年目をむかえ完成年度となったことから、その中で見つかった課題をもとに科・コース・教科と連携し、見直しを検討	課題の検討を行い、令和10年より実施する教育課程の原案を提示。	教科会議、教育課程委員会での審議を行い、教育課程の変更を目指す。
	2. 教科指導力の向上	(1)授業力(教えるから学ぶ授業へ)向上を図る	・授業づくり委員会を中心に公開授業や総合進学コースでのSDGs Dayなどで得た教訓をもとに、本校の生徒・教室に応じた授業・シラバスづくりに落とし込みを研究	各単元で学ぶ内容や単元テストの実施時期を明示することにより、自発的な学習姿勢を醸成できるようにシラバス作成を行う。	実施しながら効果や課題について継続的に検証する。
		(2)授業改善につながる効果的な授業評価の実施	・授業アンケート内容・方法を全面的に見直しの検討	授業評価アンケートを前期と後期の2回実施。授業ごとの概要レポートを書くことにより振り返りと改善ができることを目的とした。アンケートはフォームを利用するなど省力化を図った。	実施しながら効果や課題について継続的に検証する。
		(3)ICT教育の推進	・教育DXの推進化(教育データのルール化・ツール整備・利活用) ・生成AI利用基本方針の作成	採点システムSmarkyの活用により成績処理業務時間の削減を行った。時間割作成ソフトの変更のための検証を行い、アイデアのAI時間割を導入することとした。	学校現場向けの生成AI活用プラットフォームであるFCEプロンプトゲート(アカデミック)やクラウド型電子図書館サービスLibrariE(ライブラリエ)の導入し、効果や課題について検証する。
	3. 2学科の教育内容の更なる充実・発展	(1)現在の取り組みを継続するための教員の共通理解と育成	・学年担当会議の定例化 ・担当教員間での勉強会の実施 ・地域企業との連携の充実	探究学習やクラフトマン事業において、地域企業や団体との連携を深めた。学校行事や日常の指導では学年会議で共通理解を深め、効果的な運営ができるように努めた。	教育課程の見直しとともに、学校全体での学科・コースごとの強みや方針について共通理解を深める。
		(2)各コースの学びの分野について検討	・大学進学後を視野に入れた普通科目の充実を図るカリキュラムに基づいた教育の展開 ・学習意欲を喚起するような仕掛けづくり ・科学技術科における新たなコース、定数、教育課程等について検討	単元テストの実施では、ペーパーテスト以外にレポートやパフォーマンス評価を取り入れた。学習意欲喚起のため、テクノフォーラムや探究ミニレッジを活用した。	令和9年度からスタートする科学技術科2年の電子・プログラミングコースでの専門教科のシラバスを作成する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅰ 教育	4. 東北工業大学との連携	(1)テクノフォーラム、探究ミニカレッジなど、現行の取組の枠組みを継続実施する	・大学との多面的な連携を通じて、人類の直面する諸課題や学問の世界に対する知的探究心と学習意欲を一層向上させるために取組内容の工夫・改善を図り、合わせて進路意識のさらなる醸成につなげるためのシステムづくり ・各事業のねらいを再確認し、統廃合・新設 ・本校及び連携校の先取り履修システムの整備と検証	改善を検討しながら実施を継続している。アカデミックインターンシップでの研究室配属の際は生徒と面談を行うなど事前指導に力を入れた。	実施しながら効果や課題について継続的に検証する。
		(2)それぞれの事業における内容の質的充実を図る			
		(3)WWL事業を契機として、大学講義の先取り履修に対する具体的システムの構築		高大連携公開講座(先取り履修)については、昨年度は2年生を含め100名であった。昨年度受講した生徒もいるため、今年度は49名の履修となった。	本校以外の高校生が東北工業大学での教育研究に触れる機会として、また広報的な意義として意義のある先取り履修の継続の是非について協議する。
Ⅱ 生徒支援	学習・生活・心身等の課題を抱える生徒も含め、丁寧な対応と支援を行い、個々の進路目標を達成させる				
	1. 基本的生活習慣の定着指導の充実	(1)校則の見直しと校則の遵守指導の徹底	・生徒による継続的なルールメイキング ・時代に応じた校則等の見直し ・生活指導に対する教員間での共通理解	服装などの校則遵守のため、学校全体での指導を行い、改善されつつある。また、公共交通期間や自転車乗車におけるルールやマナーについての苦情件数は減少しつつある。	学校全体での指導を定期的に行うことで、教職員間が共通理解を持ったうえで生徒への指導にあたる。自転車ルール改正に関する指導を行うことでルールやマナーの定着を図る。
		(2)公共交通機関や自転車乗車時のルールやマナーの定着			
	2. 資格取得に向けた指導	(1)資格取得の指導強化	・資格取得に向け、生徒に対する意識付けや募集方法の工夫を検討 ・資格試験講習動画のオンデマンド配信検討(科学技術科)	資格試験合格実績 第1種電気工事士試験8名、第2種電気工事士6名、危険物取扱者試験乙種1名、危険物取扱者試験丙種3名、品質管理検定QC検定0名、色彩検定2級0名、色彩検定3級0名、ITパスポート1名、ジュニアマイスターゴールド1名、ジュニアマイスターブロンズ8名	資格試験合格目標 第1種電気工事士試験8名、第2種電気工事士20名、危険物取扱者試験乙種5名、危険物取扱者試験丙種5名、品質管理検定QC検定10名、色彩検定2級5名、色彩検定3級5名
		(2)実用英語検定の受検推奨(高1で3級、高2で準2級、高3で2級取得を目指す)	・英検受験の推奨と、合格に向けた指導の充実	英検2級11名。英検準1級1名合格。	受験者数・合格者数は増加傾向である。合格できる英語力の向上を行いながら受験を促す。
	3. 進路指導の充実	(1)進路意識の早期確立	・キャリアガイダンスや各種進路行事の事前事後指導の強化	進路行事について年間計画の見直しを行い、次年度に向けての準備を行った。	実施しながら効果や課題について継続的に検証する。
		(2)進路情報の積極的提示と効果的な進路行事の研究	・アカデミックインターンシップへの積極的参加と大学の学びを入試につなげる指導の強化	アカデミックインターンシップの事前指導で面接を導入した。事後指導として発表動画の作成を行った。	インターンシップ参加者の東北工業大学への進学率は高くなかったのもの、進路実現において有意義な行事であるので、継続したい。
		(3)生徒の希望進路に応じた組織的な受験指導の徹底	・早期からの志望理由書・小論文・面接の指導と教員全体指導の確立	3年生の大学進学希望者(学校推薦型、総合型入試)4～5名の生徒に対して2名の教員で志望理由書作成や面接等の指導を行った。	志望理由書作成サポート副担任mirAIを希望者に導入し、指導の均一化を目指す。また、昨年度まで行っていた。教員による指導は継続する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅱ 生徒支援	3. 進路指導の充実	(4) 新たな進路開拓と公務員受験指導体制の確立	・就職や公務員希望者への早期な説明会と複数実施	東北電力ネットワーク(株)から採用枠1名をいただいた。	就職希望数は少ないが、説明会に参加する保護者の意識は高い。生徒に対して就職への意識を変化させる丁寧な指導を継続する。
	4. 多様な生徒への教育支援の充実	(1) 学習支援センターの機能充実	・学習支援センターを中心に学校全体で取り組む特別支援教育体制の充実 ・校内外の関係機関と連携した相談支援体制の機能充実 ・ケース会や運営委員会等を活用した情報共有の促進 ・特別支援教育の理解促進のための校内研修の実施	登校に対して不安を感じている入学予定者を対象に入学式前にスクールオープンデイを開催し、スムーズに高校生活をスタートできるようにした。11名の生徒が参加し、8名が進級した。教職員対象の研修会「発達に偏りのある生徒の理解と支援～当事者の話から～」を開催。	スクールオープンデイは継続して実施。オンライン授業は広く生徒の学習機会の保証を行うことができたが、総括テストの受験の仕方や双方向の授業の難しさなど課題が残った。関係部署と連携しながら改善に向けた検討を行う。
		(2) 支援教育プログラムの作成と実践	・発達上の課題のある生徒に対する支援プログラムの作成と実践 ・不登校・不応応傾向の生徒に対する支援プログラムの作成と実践 ・学習不振の生徒に対する支援プログラムの作成と実践 ・健康管理上支援の必要な生徒に対する支援プログラムの作成と実践	前年度整備したオンライン授業を実施。8名の利用を認定した。発達に偏りのある生徒が定期的に学習支援センターを利用し、安定した学校生活を送ることができた生徒もいた。保護者や関係機関との連携を行い、情報の共有と早期の支援を行った。	受験段階からの情報収集、生徒・保護者の相談体制確立、学力不振生徒への対応等これまで行ってきたことについて、教員間で情報共有し、関係部署と連携しながら改善を進める。
	地域や外部機関および他校(他校種も含む)との積極的な交流を図り、開かれた学校を目指す				
Ⅲ 地域貢献	1. 国際交流、理解の推進	(1) 異文化交流の推進と異文化理解のための活動強化	・WWL事業を通して、タイや台湾、アメリカの高校との交流 ・WWL連携校との定期的な情報交換 ・留学制度の整備	2学年全員の研修旅行先を台湾とした。科学技術科は企業見学を行い、総合進学コースの若者と文化班は国立台北科学大学の学生と交流を行った。また、アメリカデラウェア州スタディーツアー(3/9～20)を企画し4名が参加した。	アメリカデラウェア州のドーバー高校とのオンライン交流を継続し、台湾の姉妹校ともWWLの後継事業を通して連携を継続する。進学先としてアメリカデラウェア州の大学を検討する。
	2. 地域社会への貢献と協調の推進	(1) 学校開放講座等の企画・実施	・学校開放講座、および小中学校への出前授業の実施	小中学校からの依頼による出前授業の実施はなかった。	八木山市民センターで行っているスマホの使い方講座や仙台市主催の企画において生徒が授業を行うなど、依頼による生徒の参加が増えており、この形での貢献を継続する。

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
Ⅳ 環境整備	本校教育の充実のために教育環境を整備する				
	1. 教育環境の充実・推進	(1) 高校グラウンド・武道館及び本館等の整備計画の作成	・改修、改築に係る整備計画の遂行	本館・1号館のクラック工事を行った。また、サンコートの人工芝補修の計画を作成した。	サンコートの人工芝補修を行う。また、武道館の整備計画について検討する。
		(2) ICT教育推進に係る施設・設備の整備	・AppleTVの更改 ・体育館Wi-Fi強化(学校行事オンライン支援) ・オンライン時のレスポンス機能整備 ・WWLオンライン支援 ・オンデマンド教材のストックバンク整備(学習支援センターとの連携) ・黒板からホワイトボードへの更改 ・各教室のマルチBOX整備 ・MicrosoftTeamsの運用改善	Wi-Fiのアクセスポイントの更改を行い、アクセス状況はかなり改善された。	DXハイスchoolに関連し、情報科目や探究的な学びの一助となる図書館システムの整備を行う。また、メタバースの教育的利用について検討を行う。
		(3) 担当教員の配置、半年に一度の目視による点検	・教職員の点検作業の確立(女子共有施設の増築・トイレや更衣室はマスト・建屋ごとの改修も継続的に実施)	安全確認1回、その後の経過確認を1回、計2回の安全確認を行った。	今後も継続する。
Ⅴ 学校運営	募集戦略の推進と城南ブランドの構築、および円滑な学校運営を推進する				
	1. 生徒募集に向けた戦略的活動の実践	(1) 中学校、学習塾等への積極的な広報活動	・年間を通した計画的な活動とWebページ・動画コンテンツの充実、SNSメディアの活用	中学校訪問92校、ブログ記事39件、Instagram30件の投稿。Instagramには動画を取り入れるなどした結果、フォロワーが700から900に増加した。	塾対象の学校説明会では情報交換会を取り入れ、参加者が気になることについて話す時間を設けた結果、様々な意見を聞くことができた。今後もこの形態を継続する。
		(2) オープンスクール、各種説明会・相談会の開催	・年2回のオープンスクール、5回の相談会を開催 ・生徒スタッフを100名程度 ・参加申し込みでWeb出願システムを活用	授業体験の定員を増やしたことにより、オープンスクール参加生徒は7月409名、10月458名で昨年度より102名増加した。個別入試相談会は99名で前年度と同数。	今まで教員が担当していたことを生徒スタッフが担当するように変更している。生徒・保護者のアンケート結果からは好評であるので、生徒が活動する場面を増やす。
		(3) Web出願システムを活用したDXの推進と入試制度の総点検	・入学手続き案内など冊子で作成していたものをダウンロード形式に変更、入試制度の総点検による改善	公立高校が調査書の送付を電子化したが、初年度で混乱する可能性を考慮し、本校は従来のままとした。また、令和9年度入試から入試科目の変更を検討した。	公立高校と同じ方式で調査書の送付を電子化する計画である。また、前期一般入試AB日程における入試科目を令和9年度より国数英の3教科とする。(現行は、A日程:国数英、B日程:社理)

：最重点施策

領域	基本方針			【実施状況】 (2026.3.31現在)	【今後の計画】
	大項目	中項目	プラン内容		
V 学校運営	2. 生徒が活き活き活動できる学校づくり	(1) 学校行事・特別活動・生徒会活動の活性化とその環境整備と体制づくり	・学校行事のアップデート ・生徒主体の行事運営 ・部活動活性化と自主性育成 ・安全性確保のための全部活動校地内統括環境・体制づくり	文化祭や体育祭など生徒の意見を取り入れながら、運営についても生徒に任せることが増えてきている。	今後も生徒が自主的に活動する仙台南のイメージを醸成するために生徒と教職員の連携を強化する。
		(2) 課題解決に向けたアクションを取り入れた探究活動の拡大	・アクションを前提とした指導内容の検討 ・先進事例の情報共有	WWLコンソーシアム構築支援事業でカリキュラム開発を行った。また、サステナブル高校生ブランド国際会議の高校生版であるSB Student Ambassador東北ブロック大会を誘致した。	WWLコンソーシアム構築支援事業の後継事業により、課題解決に向けたアクションを取り入れた探究活動を継続する。また、SB Student Ambassador東北ブロック大会の誘致は東北工大のPRの一助となることから継続したい。
		(3) 地域活動への参加者数を維持・拡大するための指導法の開発や担任団との情報・意識共有	・活動成果を評価するシステムづくり ・事前・事後指導内容の検討 ・市民センターや各種団体との連携の充実	探究活動において八木山市民センターと連携しながら地域活動を行う団体と活動している。	探究活動による連携からボランティア活動へ発展するなど地域活動に参加する生徒が増加傾向である。担当する教員を複数にすることで活動の拡大を目指す。
	3. 校内外組織体制の充実	(1) 学年会、教科会、科会の充実と情報共有	・毎日の管理職打合せ、定期的な校務幹事会の開催 ・分掌会議への事務職員の参加	基本的に毎日管理職の打合せを持ち、情報共有と課題解決に向けた意見交換、対応方針の決定を行った。校務幹事会は火曜日の3校時目の開催とし、学校運営における課題共有等を行った。	管理職打合せ→校務幹事会→校務運営委員会→職員会議といった一連の流れは根付いている。月例の分掌会議も根付きつつあるが、さらに慣例化できるように努める。
		(2) 危機管理の徹底と校務分掌、各種委員会の組織的な運営	・校内研修会の充実と年度初めの確認	アクティブラーナーを利用した2回のオンデマンド研修、初任者研修、ミドルリーダー研修、若い非常勤講師を対象とした研修を実施。ミドルリーダー研修では危機対応に対するロールプレイング形式を取り入れている。	研修制度の体系化が定着している。各分掌が実施する研修会と職員会議における情報共有などを通じて学校全体で組織的に動ける雰囲気づくりを行う。
		(3) 教職員の適正配置とスキルアップと自己点検・自己評価にかかる面談の実施	・自己目標シートに係る校長面談(年3回)の実施とフィードバック	非常勤講師を除くすべての教職員に対して、自己目標シートをもとに校長が面談を行った。	教職員の業務に対するモチベーションの維持と次年度以降の学校運営に資する人材育成の一助とする。
		(4) ハラスメント防止・いじめ防止対策などの各委員会の強化	・校内研修会の実施	アクティブラーナーを利用した研修の他、校長から全教職員に対して注意を促すなど平時から意識づけを行った。	年2回程度、研修や注意を促すことで意識づけを強化する。
		(5) 学校評議員会の充実と周辺団体(P・TA・同窓会・後援会)との連携強化	・学校評価結果の公開と定期的な会議の開催	学校評議員会を年2回開催。周辺団体とも定期的に連携している。	学校評議員による評価や周辺団体からの意見等も踏まえて環境改善を進める。
	4. 事業予算の管理・執行の徹底	(1) 学校方針に則した事業計画立案と既存事業精査	・既存事業評価を定例化と次年度事業の立案(所要予算の算出を含む)を両輪とした事業計画のルーティン化	令和10年までの事業活動収支に係るロードマップを基に計画を立案し、実行した。	ロードマップの更新と改善計画の作成。
		(2) 教育及び学校生活に関する環境整備の年次計画化	・生徒数や男女比等を前提とした環境整備について、その優先順位を検討しつつ単年度計画、中期計画を立案・執行	新入生11クラスを前提とした環境整備を行っているが、全校で33クラスとなると演習室が不足する可能性がある。	選択科目のための演習室が不足する可能性もあり、環境整備の計画を進める。

学校法人東北工業大学 中期計画 TOHTECH2028 進捗状況【KPI大学部門】

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和5(2023)年度	【実績】 令和7(2025)年度	【目標】 令和10(2028)年度
Ⅰ 教育	多様な学生を受け入れ、多様で充実した教育体制のもとに、一人ひとりの能力を向上させて社会に送り出す時代に即した教育とその体制を拡充する	①収容定員充足率(学部)	112.2%	107.3%(R7.5.1時点)	110%以上
		②教育満足度 (共通学生調査:授業の全体的な質の満足度で「どちらかといえば満足」以上の回答者割合)	91.7%	89.6%	92%以上 (5年間平均)
		③進路満足度 (共通学生調査:卒業後の進路先の満足度で「どちらかといえば満足」以上の回答者割合 ※ただし進路未定者を除く)	95.5%	97.1%	96%以上
		④改組の進捗	改組検討 (カリキュラム)	・学部における収容定員の適切な管理に向けて収容定員に係る学則変更届提出済	学部完成
Ⅱ 研究	学内外の研究者との横断的組織化を図り、先端研究、地域対応型研究、教育のための研究を推進する	①外部資金獲得者数割合 (科研費分担含む、専任教員のみ、1件以上)	49.1% (56/114人)	53.5% (61/114人)	55.0% (63人:教員数114人と仮定)
		②大学院博士(前期)課程収容定員充足率	125.0% (参考:大学院全体 84.4% 、博士後期課程 16.7%)	165.0%(R7.5.1時点)	130%以上

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和5(2023)年度	【実績】 令和7(2025)年度	【目標】 令和10(2028)年度
Ⅲ 社会貢献	地域ニーズの把握、本学の知的シーズとのマッチングおよびコーディネートを充実強化する	①社会貢献活動情報の本学Webサイト(ニュース)への掲載件数 (地域・産学連携、研究活動等情報)	88件	153件	120件以上 (年間)
Ⅳ 管理運営	効率的かつ機能的な管理運営体制を構築するとともに、健全な財政基盤を確立する	①長期計画(将来構想)の策定	未実施	未実施 (令和7(2025)年、将来構想検討委員会設置)	策定
		②ブランドビジョンの個人活動反映者割合 (「時々している」以上の回答者割合)	教職員：37.2% 学 生：24.3%	教職員：53.1% 学 生：27.9%	教職員：60%以上 学 生：40%以上
		③事業活動収支差額比率	4.4%	【見込】 -5.1%	5.0%以上 (5年間平均)
Ⅴ 施設設備	八木山キャンパス整備基本構想に基づき、本学の教育研究に寄与できる教育環境を整備する	①施設整備長期計画の策定	未策定	未策定	策定
		②新棟2期竣工	未着手	進行中	竣工
		③既存全施設の修繕計画策定	未策定	未策定	策定

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和5(2023)年度	【実績】 令和7(2025)年度	【目標】 令和10(2028)年度
VI 連携交流	学外機関(高校・同窓会・後援会、国際交流協定先等)との連携強化を図るとともに、ブランド発信力を強化する	①仙台城南高校内部進学率	27.4% ※城南高校3年生に占める本学 進学者の割合	24.7% ※城南高校3年生に占める本学 進学者の割合	30%以上
		②高大接続連携先高校出身者の卒業率 ※令和6年1月現在 ・仙台城南高校 ・仙台三桜高校 ・仙台向山高校 ・気仙沼高校 ・白石工業高校	76.2%	77.1%	88% (参考:卒業率の過去最高値: 平成27(2015)年度の全入学生 の卒業率:87.2%)

学校法人東北工業大学 中期計画 TOHTECH2028 進捗状況【KPI高校部門】

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和5(2023)年度	【実績】 令和7(2025)年度	【目標】 令和10(2028)年度
Ⅰ 教育	常に創意工夫に努め、生徒一人ひとりの能力を十分に引き出す教育を実践する	①学校評価における授業満足度	71.6%	78.0%	88%以上
		②アカデミックインターンシップ受講者の東北工業大学進学率	81.4%	45.7% (37名/81名)	80%以上
		③大学講義先取り履修の受講者数(WWL)	未実施	49名	10人以上
Ⅱ 生徒支援	学習・生活・心身等の課題を抱える生徒も含め、丁寧な対応と支援を行い、個々の進路目標を達成させる	①進学者数に占める大学進学者の割合	76.3%	80.9% (212名/262名)	85%以上
Ⅲ 地域貢献	地域や外部機関および他校(他校種も含む)との積極的な交流を図り、開かれた学校を目指す	①WWL海外連携校数	2校	2校 (国立台南高級商業職業学校;台湾) (台北市立大理高級中学;台湾)	4校以上
		②海外姉妹校数	2校	2校 (国立台南高級商業職業学校;台湾) (台北市立大理高級中学;台湾)	4校以上
		③海外大学進学者数	0名	0名	3名以上

領域	基本方針	KPI (Key Performance Indicator)			
		指標	【実績】 令和5(2023)年度	【実績】 令和7(2025)年度	【目標】 令和10(2028)年度
Ⅳ 環境整備	本校教育の充実のために教育環境を整備する	①校内点検	未実施	年2回 (1回は点検、2回目は状況確認)	年2回
		②環境整備の実施と計画策定	計画策定	実施・計画策定 (Wi-Fi改修・サンコート改修 など)	実施・完成
Ⅴ 学校運営	募集戦略の推進と城南ブランドの構築、および円滑な学校運営を推進する	①入学定員充足率	90.0%	92.6% (338名/365名)	100%以上
		②学校評価アンケートの以下3項目における「だいたいそう思う」以上の割合	83.0% (質問1)	84.4%	90.0%以上 (質問1)
		<質問1> 部活動は活発に行われている	81.4% (質問2)	84.8%	85.0%以上 (質問2)
		<質問2> 学校行事や生徒会活動は活発に行われている			
		<質問3> 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている	61.6% (質問3)	67.5%	80.0%以上 (質問3)

